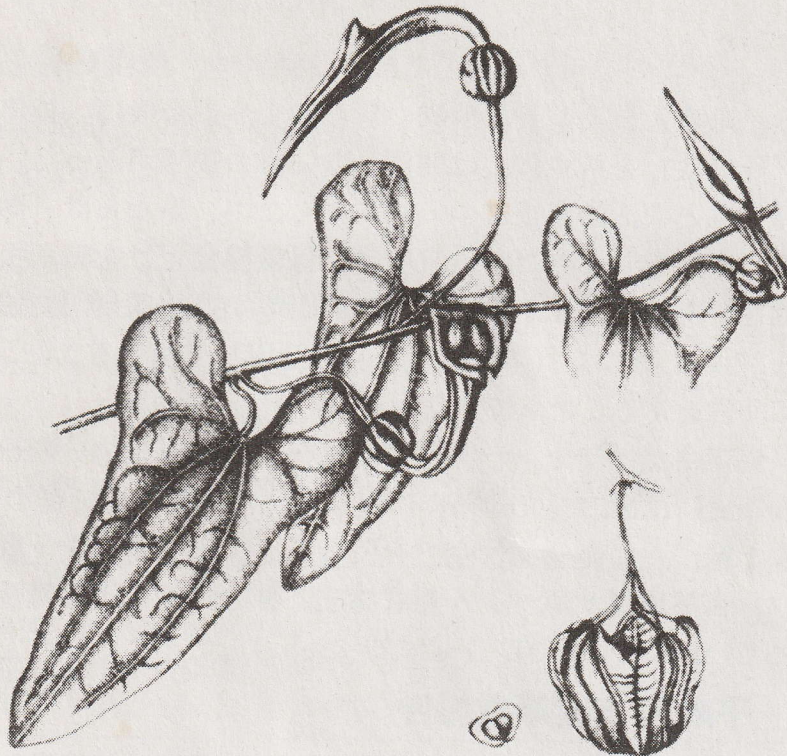


協議会ニュース

No. **151**

2016. 6



Contents

02	平成 28 年度 通常総会	事務局	石原 則義
04	【募集】ユニバーサルな自然観察を学ぼう！	事務局	石原 則義
05	講演会報告「世界に誇る辺野古・大浦湾のサンゴ礁の海」	尾張支部	久米 未祐
06	私の活動紹介「自然素材を使ったクラフト」	西三河支部	河江 喜久代
07	世界のインタープリテーション 第6話 マンサニージョでのウミガメ保護センター見学	東三河支部	中西 正
08	名古屋支部総会報告	名古屋支部	滝田 久憲
	知多支部総会報告	知多支部	吉川 勉
09	西三河支部総会報告	西三河支部	三田 孝
10	平成 27 年度 第5回理事会 報告	事務局	石原 則義
11	平成 28 年度 第1回理事会 報告	事務局	石原 則義
12	行事案内		

今号の表紙

木村 絢子（尾張支部） ウマノスズクサ

平成 28 年度 通常総会

日 時 : 平成 28 年 3 月 21 日(土・祝) 13:30～
場 所 : 日本特殊陶業市民会館 第 1 会議室
参加者 : 44 名

●開会

大谷会長の挨拶に続き、総会の議長として降幡副会長を選出。書記として浅井理事を選出した。

(大谷会長)

愛知県から、県の人員及び予算削減の影響により、今後は「指導員講習会」と「フォローアップ研修会」を県主催では開催しない旨の説明があった。県協議会から協議会設立の経緯や県との活動実績について説明したが、県からは「同行事は日本自然保護協会と共催し支援をしてきたが、日本自然保護協会だけを特別扱いすることは出来ない」との返答があった。しかし、今後、同行事を県協議会が主催する場合は、県が後援し、「あいち森と緑づくり事業交付金」を活用し支援すること、また、その申請方法等について助言をすることもできるとの申し出があった。

今年度は県協議会が「フォローアップ研修会」及び「生物分類研修会」を主催し、日本自然保護協会には協力、愛知県には後援をいただくことで進めていきたい。

「あいち森と緑づくり事業交付金」を使うことにより講座を一般市民にも解放していく。名称は、自然環境サポーター養成講座。独自提案による環境保全活動・環境学習事業を考えていきたい。ご協力いただきたい。

●第 1 号議案 平成 27 年度事業報告

石原事務局長から、総会資料に基づき事業報告がなされ、賛成多数で承認された。

なお、「タケ調査」の進捗状況について、調査担当の瀧崎理事から発表していただく予定だったが、コンピューターの調子が悪く、次の機会に発表することとなった。

また、会員から「生物分類研修会に一般の人はどれだけ来ているのか」との質問があり、石原事務局長が「手元に資料がなく正確なことは分からないが、観察会で呼びかけしており、毎回何人かの方が見える。」と答えた。(後日調べたところ、2割強が一般参加者だった。)

●第 2 号議案 平成 27 年度決算・監査報告

会計担当の吉田理事から、総会資料に基づき決算報告がなされた。

榊原・河江両監事から、適正に処理されているとの監査報告がなされ、賛成多数で承認された。

●第 3 号議案 新役員承認

大谷会長から、新任では、堀田守氏は副会長、新山・長谷川理事など理事会で選任された新役員の紹介があり、総会の場で承認された。

退任は、降幡副会長、辻会計。降幡副会長から退任のごあいさつをいただいた。

2016（平成 28）年度 役員名簿

会 長	大谷 敏和	（ 継続 ）	支 部 長	尾張支部	齋竹 善行
副 会 長	星野 芳彦	（ 継続 ）		名古屋支部	滝田 久憲
副 会 長	堀田 守	（ 新任 ）		知多支部	南川 陸夫
事務局長*1	石原 則義	（ 継続 ）		西三河支部	三田 孝
会 計	吉田 雅紀	（ 継続*3）		東三河支部	寺本 和子
編 集	久米 未祐	（ 継続 ）		奥三河支部	浅井 聡司
名簿管理	森田 琢磨	（ 継続 ）	*1 「講習会・研修会」を含む		
HP担当	永田 孝	（ 継続 ）	*2 「保全」を含む		
保険担当	布目 均	（ 継続*4）	*3 会長・事務局長が支える		
広報担当	石川 正雄	（ 継続 ）	*4 見習い・後継者育成		
調査担当*2	瀧崎 吉伸	（ 継続 ）			
ネットワーク担当	浅井 聡司	（継続・新設）			
新 理 事	新山 雅一	（ 新任 ）			
	長谷川洋二	（ 新任 ）			
監 事	榊原 靖	（ 継続 ）			
	河江喜久代	（ 継続 ）			

●第4号議案 平成 28 年度事業計画

石原事務局長から、総会資料に基づき事業計画案が提案され、賛成多数で承認された。
以下は追加・変更事項。

- ・ 東三河の研修会：5月29日（日）豊橋市石巻山駐車場 9:30
- ・ 受託事業追加：稲武合宿での自然観察 沢上中学校（8/3）、有松中学校（9/8）
- ・ フォローアップ研修会の日時変更：8月20日（土）～21日（日）
- ・ フォローアップ研修会、生物分類研修会は「あいち森と緑づくり事業」として申請
（フォローアップ研修会の名称は「自然環境サポーター養成講座」に変更）

●第5号議案 平成 28 年度予算案

会計担当の吉田理事から総会資料に基づき予算案が提案され、賛成多数で承認された。
郵送した総会資料の一部、予算案の収支に、あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業の県交付金額約40万が記載されていなかったため記載した。（訂正版は今号に同封。）

《総会終了後、講演会と懇親会を開催》

（記録：石原）

“ユニバーサル”な自然観察を学ぼう！



庄内緑地ネイチャ・フィーリング

隔年で実施してきたフォローアップ講座。今年はあいち森と緑づくり環境活動推進事業の助成を受け、「自然環境サポーター養成講座」として県協議会主催で実施します。

今年のテーマは「ネイチャ・フィーリング」です。ネイチャ・フィーリングは、日本自然保護協会(NACS-J)が進める自然観察会の手法で、「いつでも・どこでも・だれとでも自然観察し、感動を分かち合う」、「五感を使って自然のしくみを観察する」ことが特徴です。この研修に参加し、より質の高い観察会を開催しましょう。20年以上ネイチャ・フィーリングを実践し続けている講師から、五感を活かした自然観察会の原点が学べます。

研修の詳しい内容等は、同封のちらしをご確認ください。

開催日：2016年8月20日(土)～21日(日) 雨天実施

宿泊は伴いません。必要な方は各自でご用意ください。2日間とも昼食を持参ください。

時間：〈20日〉11:00～17:00(受付10:30～)/〈21日〉10:00～17:00(予定)

主催：愛知県自然観察指導員連絡協議会 協力：日本自然保護協会 後援：愛知県

会場：庄内緑地グリーンプラザ・庄内緑地公園内(名古屋市西区)

(20日の受付はグリーンプラザ2F講習室)

交通：地下鉄鶴舞線「庄内緑地公園」下車2番出口すぐ南

受講料：2,940円(テキスト代を含む)

定員：30名(応募多数の場合は抽選)

対象：18歳以上で2日間とも参加できる方、ネイチャ・フィーリングに関心のある方

申込方法：同封のちらしに必要事項を記入し郵送またはFAXで送付するか、

必要事項をEメールに記載し、各支部長又は申し込み先へお送りください。

【必要事項】氏名、性別、住所、電話番号、E-mail、

申込締切：2016年7月31日(日) 必着

申込み先：愛知県自然観察指導員連絡協議会事務局

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL・FAX(052)711-3087

E-mail: noriyoshibob@yahoo.co.jp

世界に誇る辺野古・大浦湾のサンゴ礁の海

講師 日本自然保護協会 阿部真理子 氏

レポート：尾張支部 久米 未祐



▲講師の阿部真理子 氏

平成 28 年度の総会后、「世界に誇る辺野古・大浦湾のサンゴ礁の海」と題して、日本自然保護協会自然保護室の阿部真理子氏による講演が行われました。

名護市辺野古・大浦湾の貴重なサンゴ礁やジュゴンの生態、世界的にも報告されているサンゴの白化現象、辺野古埋め立てにより生態系が脅かされていることなど、辺野古・大浦湾の現状をお話いただきました。

生き物の話を中心に、講演の主な内容を報告します。

<講演の概要>-----

サンゴは動物です。基盤が固く、自身では動くことができないので、褐虫藻に光合成をしてもらいエネルギーをもらっています。サンゴは、1つ1つはよく似た形をしていますが、集まるといろいろな形になります。

サンゴ礁は、サンゴが何年～何百年もかけて作る地形の名前です。自然の防波堤としても機能し、中はすべてサンゴ由来のものでできています。

日本では、黒潮のおかげで関東近海でもサンゴを見ることができますが、サンゴ礁は沖縄から九州近海に分布し、それより北上すると水温が低すぎて群集を作ることはできません。

このサンゴ礁とジュゴン、ウミガメなどが見られるのが辺野古周辺です。大浦湾では、6種類のクマノミを全て見ることができます。長島の洞窟には、サンゴが付着して成長した鍾乳石もあります。また、辺野古の海には沖縄最大の海草藻場があり、1990年年代にはジュゴンの目撃情報も多く、中には漁師の網にかかってしまって困るという記録もありました。

しかし、今確認されているジュゴンは3頭。埋め立て工事による海や陸地への影響も心配です。サンゴが何万年もかけて作り上げたサンゴ礁は、一部分を埋め立てただけでも、周りのサンゴに影響を及ぼします。島外からの土砂の持ち込みによる外来種等の影響も懸念されます。

サンゴ礁は、ただでさえ陸地の開発や人工ビーチの造成等で、世界的にも危険な状態です。貴重な財産を自らの手でつぶしてしまってよいのか、他人事と思わずに、どうかこの件にも興味を持っていただきたいと思います。

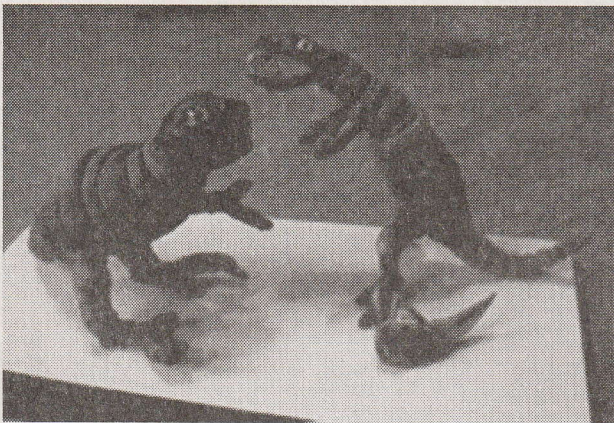
講演会終了後には、同席されていた日本自然保護協会自然保護部部長の志村氏からも「私たちの生活は海と切り離せない。海にも目を向けていただきたい。」というお話がありました。

自然素材のクラフト

西三河支部 河江 喜久代

自然素材で作ったクラフト作品の紹介で私の活動紹介とします。

ピスタチオを食べていたとき、殻が割れずに実だけが出てきた。あら！口を開けた恐竜に見えると思った。森の整備で大きなタカノツメ（ウコギ科）が切られていた。短い枝を見るとごつごつしている。いい感じに曲がっている枝もある。長くても5センチ程だが恐竜の足に見えた。枝打ちされたヤマザクラの冬芽を集めてあった。これは歯になるかな。ピスタチオは白っぽくてツルっとしているので、アベマキのイガイガを削った粉とボンドを混ぜて塗ってみた。そうして出来たのが「極小恐竜」



【材料（左の恐竜）】

頭（ピスタチオ・ヤマザクラの皮）、歯（ヤマザクラの冬芽）、胴体（コナラ・アベマキの殻斗）、足（タカノツメの短枝）

【材料（右の恐竜）】

頭（マテバシイ・ヤマザクラの皮）、歯（スギの葉）、胴体（コナラの殻斗）、足（タカノツメの短枝）

他にも2つ紹介します。

「アベマキの花かご」



【材料】

籠（アベマキ）、台（アオツヅラフジ）、活けてある材（ヌカススキ、コバンソウ、ヒメコバンソウ、ヘクソカズラ、ノイバラ、スズメノヤリ）

「シメジ」



【材料】

タカノツメ、コナラ

マンサニージョはメキシコの南部にあり、太平洋に面した大きな湾の奥に位置していた。客船が入った場所の南側には小高い山があり、その向うには低い潟が広がっているようだった。手前の山には白い壁の住居が建ち、一見地中海沿岸の風景を思わせたが、私には日本の、例えば神島などに似ているという連想の方が強かった。建物の間に緑（木々）が見られたからだろう。

「ウミガメ保護センター訪問から学ぶ自然保護」のツアーに参加した。船を降りてずっと南に下る。左側には潟がありマングローブも見られる。道沿いにはヤシが多く見られたが、ココヤシのプランテーションだという。マンゴー、レモン、アボガドなどの農業が盛んで、海ではエビ、カキ、ムール貝などが取れ、大変安く購入できるそうだ。まず塩の博物館に行く。個人の運営で、平屋の建物の内部に周辺の自然や塩田業の歴史写真と模型展示がしてあるだけだ。この地域は全て天日だけの入浜式塩田業だという。大粒な結晶で、粗い味だったが2 kgの袋を1ドル（10ペソ）で購入。

保護センターの東に潟湖があり、その周囲はマングローブで覆われている。まずその潟湖をボートに乗って観察した。マングローブを切り開いた中に船溜まりがあり、そこからはマングローブの内側が見える。所々に転がったヤシの実が発芽し、成長している。農作物のココヤシが流れ着いたものだというが、これらが成長した時ヤシ主体の群落に変化してしまうのではないだろうか。

次いで湖を巡る。一部はヒメガマが広く覆っている。水は茶色で匂いがある。PHは7.17、水温は30.8度と生温かい。木の上にはペリカンやウヤサギの仲間。ピンクかか

ったトキ色のものもおり賑やかだ。残念ながらこれらの説明はなかった。

ウミガメ保護センターは、吹き抜けの建物の中に自然やカメなどのポスターが貼られていた。飼育しているカメを見せてくれた。4才の大きなクロウミガメと、今年生まれたクロウミガメそしてブリエッタというウミガメだった。このクロウミガメが進化してガラパゴスのミドリウミガメになったという。メキシコにはウミガメは6種類おり、5種類は太平洋側にいる。そのうち4種類が産卵するということだった。飼育は長円形の水槽だが、一部に砂場が付いていた。すぐ前は太平洋で大きな波が打ち寄せていた。砂浜は火山性の黒い砂だ。砂丘の最高部に小屋が作られており、ここで卵を保護して孵すという。卵は放置した場合その孵化率は30%であるが、保護するとほぼ100%になるという。自然の状態のリスクはハエ（昆虫）、キツネ、アライグマなどの獣によるということだった。ハエがリスクになっているとは初めて聞いた。

この海岸線は160kmあり、同様の施設がもう一カ所。それらを10人の職員でカバーしているそうだ。保護する数は年間7.7~9万個にのぼるという。それを小屋だけで処理できるのかと聞いたところ、卵は砂浜に埋め戻さず、砂を入れた箱に入れてセンター内にある建物に立体的に保管するということだった。こうすれば保護は完璧で、数もこなせることだろう。



▲ウミガメの説明

名古屋支部総会報告

名古屋支部 滝田 久憲

日 時：2月28日(日)14:00～

場 所：名古屋市民活動センター集会室

出席者：28名

平成28年度名古屋支部総会が2月28日(日)午後2時から、栄のナディアパーク・デザインセンタービル6Fにある名古屋市民活動推進センター集会室で開催されました。当日の出席者は28名(欠席委任状44名)で、支部長のあいさつの後、議長に浅井会員が選出され、議事が進められました。最初に平成27年度の事業報告を行いました。ポストESD世界会議という事で、会独自の活動に加えて、他の団体の活動に協力した事業が増えてきました。続いて、昨年度の会計報告がなされ、共に承認されました。また、今年度は役員の改選が無いために、現役員の紹介がなされ、平成28年度の事業計画、さらにそれを実施するための事業予算が提案され承認されました。

総会終了後、金城学院大学薬学部講師の森勇一氏により、「アンモナイトの約束―「名古屋の自然」3つのジオストーリー」と題した講演会が行われ、3つのテーマで愛知県の地質の変遷が紹介されました。特に、現在、周伊勢湾要素植物群が分布する地域の地層に濃尾流紋岩が含まれていることから、現在の瀬戸や瑞浪などで見られる東海層群は御嶽山などで生成された火山岩が土石流となって頻繁に下流に流されてきた河川成堆積物であるという興味深い話を聞くことが出来ました。

名古屋支部 平成28年度役員

支部長：滝田 久憲

副支部長：石原 則義、大澤 淳二、
近藤 記巳子、高松 一史、
滝川 正子、布目 均、巾 賢治、
堀田 守

会 計：新山 雅一

知多支部総会報告

知多支部 吉川 勉

日 時：2月7日(日)9:30～11:15

場 所：阿久比町勤労福祉センター

出席者：32名

平成27年度知多支部総会は阿久比町の勤労福祉センターで開催されました。

当日の出席者は、会員総数89人に対し出席32名(出席率36%)委任状提出48名で総会は成立しました。

副代表の開会のことば、代表挨拶、出席者全員の自己紹介、議長・書記の選出の後議事に入りました。事業報告では、支部行事の漂着物観察会や持ち寄り会は多数の参加者など内容が充実していたとの報告がありました。続いて各ブロック世話役によるブロックでの活動報告、臨時の観察会、調査活動に関する報告、HPに関する報告、年報作成に関する報告が行われ、この後、会計報告、監査報告がなされました。

平成28年度事業計画では、最初に新役員の選出が行われ同年度の事業計画案及び予算案が満場一致で承認されました。

閉会の後に急遽情報交換会が行われ、出席者の活発な交流が行われました。

知多支部 平成28年度役員

顧問：降幡 光宏

代表：南川 陸夫

副代表：榊原 靖、榊原 正躬

庶務：吉川 勉

会 計：森田 琢磨

西三河支部総会報告

西三河支部 三田 孝

日 時：2月6日(土)14:00～16:30

場 所：竜美丘会館(岡崎市)

出席者：15名

総会は15名が参加し、平成27年度活動報告と会計及び監査報告を承認し、平成28年度の役員、活動計画及び予算を承認しました。支部主催の観察会を7回、研修会を1回開催することとし、会員がそれぞれ主催する地区定例会を、5か所で実施することも決めました。

加えて本年度は「西三河南部生態系ネットワーク協議会」への加入についての協議も行い、活動に参加、協力していくことになりました。

新年度の役員配置は大きく変わりました。この10年間ほぼ同じ役員体制でやってきましたが、事務局の深見さん、副会長の奥居さん、幹事の山原さんが勇退されることになり、役員の若返りが図られました。今後一般会員として後進をご指導ください。

また西三河南部生態系ネットワーク協議会への参加で、今後は自然観察会のみ活動から地域の自然関係の団体と連携を取りながら活動の場を広げていくこととなります。

平成28年度役員

会 長：三田 孝
副 会 長：馬場 隆之
事 務 局：石黒 豊広
広 報：石川 正雄
広 報：鈴木 寛之
監 査：水谷 宗保
幹 事：河江喜久代
幹 事：山本 博美
幹 事：伴 幸成
幹 事：中根 幸司

ちよつと
報告

タケ調査について

各支部及び会員の皆様、タケ調査にご協力いただき、誠にありがとうございますました。

調査結果については、現在調査担当の滝崎理事により別途詳細に報告する予定ですが、今回は皆様から寄せられたデータ数についてご紹介いたします。

調査地点数は県内各地で4,090件。調査地点にばらつきは見られるものの、多くの会員の皆様にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

詳細な報告については、もう少しお待ちくださるようお願いいたします。

愛知県竹類生育状況調査 各市町村別調査地点数

市町村		市町村	
北設楽郡豊根村	1	犬山市	0
北設楽郡東栄町	1	丹羽郡扶桑町	0
北設楽郡設楽町	1	丹羽郡大口町	0
新城市	22	江南市	0
豊川市	11	小牧市	0
蒲郡市	5	春日井市	24
豊橋市	31	岩倉市	0
田原市	15	西春日井郡豊山町	0
豊田市	1531	北名古屋市	0
みよし市	34	清須市	0
岡崎市	466	名古屋市北区	0
額田郡幸田町	24	名古屋市西区	0
刈谷市	77	名古屋市守山区	25
知立市	14	名古屋市中区	0
安城市	40	名古屋市東区	0
高浜市	0	名古屋市千種区	6
碧南市	3	名古屋市名東区	0
西尾市	46	名古屋市昭和区	0
瀬戸市	237	名古屋市天白区	7
尾張旭市	2	名古屋市瑞穂区	0
長久手市	69	名古屋市緑区	1
日進市	518	名古屋市南区	0
愛知郡東郷町	206	名古屋市中村区	0
豊明市	1	名古屋市熱田区	0
大府市	28	名古屋市中川区	0
知多郡東浦町	8	名古屋市港区	0
東海市	1	一宮市	2
知多市	416	稲沢市	0
知多郡阿久比町	35	あま市	0
半田市	0	海部郡大治町	0
知多郡武豊町	0	津島市	0
常滑市	67	愛西市	0
知多郡美浜町	49	弥富市	0
知多郡南知多町	66	海部郡蟹江町	0
		海部郡飛島村	0
		合計	4090

平成 27 年度 第 5 回理事会 報告

日 時：平成 28 年 2 月 11 日(木・祝) 13:30～ 場 所：名古屋市音楽プラザ

出席者：大谷、星野、石原、辻、吉田、久米、森田、永田、布目、石川、滝崎、浅井、堀田、斎竹、滝田、寺本

◆愛知県環境部自然環境課との打ち合わせ報告（大谷会長から）

今後「指導員講習会」と「フォローアップ研修会」を県主催では開催しないが、県協議会が同行事を主催する場合は、県が後援し、あいち森と緑づくり事業交付金が活用できる等の説明があった。県協議会としては、県自然環境課の申し出を受ける方向で進めることとした。

◆三役会議(会長、副会長)の報告

県協議会の役員を各支部から募ってもなかなか希望者等がない。自然観察指導員の活動主体は各支部であるため、県協議会の事業についてスリム化（例：事業を減らす、役職を整理し理事数を削減する、県協議会の取り回しを各支部の持ち回りとする等）を図り、「連絡」協議会という名称のとおり、各支部のネットワークづくりを中心とした活動に切り替える必要があるのではないか。スリム化については、平成 28 年度以降順次進めていく予定である。

◆議案

1. 来年度（2016年度）の行事日程（案）

あいちの自然観察会 を「一斉観察会」として 実施する案	あいちの自然観察会を一斉観察会として「緑の日（5月4日）」が提案されたが、審議が不十分だったこと、各支部での調整がつかなかったので、一斉実施はとりやめ、各支部の自主性に任せることとした。とりあえず、4月～6月の各支部の行事がわかればよいこととなった。
研修会(各支部担当)	従来通り、各支部1回実施予定。詳細は、第1回理事会までに検討。
フォローアップ研修会 愛知自然観察指導員連絡協議会・日本自然保護協会主催（愛知県後援）	日時：8月下旬（8/27日（土）～28日（日））～9月上旬（9/3日（土）～4日（日）） 場所：庄内緑地グリーンプラザ予定。日本自然保護協会と愛知県自然観察指導員連絡協議会との共催。費用は、あいち森と緑づくり事業交付金で対応していく。 生物分類研修会も同様に対応。大谷会長が窓口となる。広報としては、次代を担う若者に参加してもらうよう呼びかける。
協議会交流の日	日時：11月3日（木）9:30 場所：常滑市蒲池海岸 テーマ：漂着物の観察会 担当：知多支部

2. 理事改選

役職の固定化を防ぐため、過去の理事会にて「理事は3期まで」と取り決めたが、次期役員の希望者はほとんどいないため、3期を越えて継続せざるを得ない理事もいる。平成28年度は次期役員改選に向け、候補となる会員に理事会を見学してもらうなど見習い期間を設ける等、後継者育成を検討する。

3. タケ調査 活用方法についての質問あり。相当数集まったので、総会でまとめを発表する予定。

<その他> 奥三河支部の再建あるいは解散整理については、奥三河支部担当の浅井さんが奥三河支部の会員10数名に手紙を書き、3月末までには、経過も含めて支部の存続についてはっきりさせることを理事会で確認した。

平成 28 年度 第 1 回理事会 報告

日 時：平成 28 年 3 月 21 日（月・祝）10:00～ 場 所：東別院会館

出席者：大谷、星野、石原、辻、吉田、久米、森田、永田、布目、堀田、斎竹、滝田、南川、寺本、河江、
新山、長谷川

◆フォローアップ研修会

平成 28 年度から、あいち森と緑づくり事業交付金を活用することになり、愛知県主催事業から県協議会主催事業とした。（日本自然保護協会は協力）

◆愛知県移入種検討会の委員（愛知県環境部自然環境課からの依頼）

これまで副会長の降幡氏が愛知県移入種検討会の委員を務めていたが、平成 28 年度から降幡氏が理事を退いたことに伴い、後任として堀田副会長を推薦した。

◆議案

総会資料について再度確認した。主な確認事項は以下のとおり。

平成28年度予算案	平成 28 年度からあいち森と緑づくり事業交付金を活用することとしたため、収入・支出ともに予算案を修正した。
あいちの自然観察会・研修会	各支部での日程が調整できたら、日時・実施場所・内容を各支部長に連絡する。
フォローアップ研修会	日時：平成 28 年 8 月 20 日（土）～21 日（日） 場所：庄内緑地グリーンプラザ 名称は「自然環境サポーター養成講座」とし、一般参加も可とする。 （あいち森と緑づくり事業交付金の対象事業）
生物分類研修会	テーマ：哺乳類分類と生態（一般参加も可） 日時：平成 28 年 10 月 10 日（月・祝）13:30～ 場所：日本特殊陶業市民会館 3 F 第 1 会議室 講師：畠佐代子氏（日本カヤネズミ・ネットワーク代表） （あいち森と緑づくり事業交付金の対象事業）
協議会交流の日	テーマ：漂着物の観察会（担当：知多支部） 日時：平成28年11月3日（木・祝）9:30、場所：常滑市蒲池海岸
受託事業	豊田市稲武・自然観察ハイキング（名古屋市立振甫中学校 2 年生） 日時：平成28年4月26日（火）10:00～12:00（集合 9:30） 場所：稲武第 1 本館から面ノ木園地（4.0km）まで（指導員20名参加予定） 追加：沢上中学校平成28年8月3日（水）、有松中学校平成28年9月8日（木）
調査	平成28年度はどのような調査をしたらよいか調査項目を募集する。
機関誌	3、6、9、12月の年4回発行予定。No. 154号から新連載として、各支部の主なフィールドの今昔を取り上げる予定。
保険	平成28年度のレクリエーション傷害保険について協議会ニュースに折込む。

＜その他＞ 第 2 回理事会 5 / 5（木・祝）13:30～ 場所：名古屋都市センター

***** 行 事 案 内 *****

区分	日時	内容	場所	集合場所	担当
自然環境 サポーター 養成講座	8/20（土）～ 8/21（日）	場所：庄内緑地グリーンプラザ （詳細は同封ちらしをご参照ください。）			
研修会	9/22（木・祝） 11:00～16:00	秋の渡りと干 潟の生き物	藤前干潟・庄 内川河口部	稲永ビジターセ ンター11:00	尾 張
あいちの 自然観察会	10/1（土） 10:00～12:00 （雨天中止）	吉賀池湿地に 咲く秋の花を 見よう	吉賀池湿地	湿地入口10:00 森林公園案内所 9:30	尾 張
生物分類研 修会	10/10（祝） 13:30～	哺乳類分類と 生態	日本特殊陶業 市民会館	-	協議会
協議会交流 の日	11/3（祝） 9:30～	漂着物の観察 会	常滑市蒲池海 岸	-	知 多

あいちの自然観察会、研修会については、この他にも知多支部、西三河支部で企画中です。詳しくは各支部にお問い合わせください。

＜編集後記＞ 3月、6月、9月、12月の年4回発行している協議会ニュース。編集担当としては、各発行月初めに皆様のお手元に届くことを目標に、毎回多くの方にご協力いただきながら、原稿の編集作業を進めております……が、今回は様々な事情により、少しその編集作業が遅れてしまいました。大変申し訳ありませんでした。今後はスケジュール管理をしっかりとしていきたいと思っております。

さて、昨年度は私が1人で編集後記を書いてしまいましたが、今年度はまた他の編集スタッフにも執筆してもらおうと思っておりますので、皆様楽しみにしていってくださいね。（久米）

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」	久米未祐 TEL: 090-3302-1621
編集部	E-mail: ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail: noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page: http://naichi.net
郵便振替口座: 00820-9-6546（名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会）

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）機関誌「協議会ニュース」151号 平成28年6月発行

第5号議案 平成28年度予算（H28年2月1日～H29年1月31日）

収入

科 目	予 算 額	27年度予算額	差 引	備 考
会 費	785,000	805,000	▲ 20,000	会員400名内家族10名分（@2000×390+@500×10）
保険料	120,000	120,000	0	保険料(観察会徴収分@40×3000人分)
寄付金	2,000	2,000	0	
受託金	8,000	0	8,000	4/26名古屋市長振甫中学校 稲武合宿
助成金	400,000	0	400,000	フォローアップ研修用にあいち森と緑づくり税を申請
雑収入	0	0	0	
前期繰越金	2,021,501	1,839,076	182,425	
合 計	3,336,501	2,766,076	570,425	

支出

科 目	予 算 額	27年度予算額	差 引	備 考
自然観察会費	120,000	120,000	0	保険料(@40×3000人)
調査費	20,000	20,000	0	
研修会費	550,000	200,000	350,000	○研修会10月に予定 講師謝金、会場費等 ○8月下旬フォローアップ研修会補助(助成金適応) ○協議会交流の日運営費補助
機関誌作成費	370,000	370,000	0	発行回数4回、編集会議、印刷代、送料、封筒代等
受託事業費	10,000	0	10,000	下見の講師代(5,000円×2名)
事務費	295,000	295,000	0	総会、理事会開催、HP運営、理事等事務費他
次期繰越金	1,981,501	1,761,076	220,425	
合 計	3,336,501	2,766,076	570,425	

知多自然観察会からのお知らせ

日本自然保護協会自然しらべ
2016 海辺で花しらべに協力
県協議会としても応援をします

記

◆テーマ：「海辺で花しらべ」 ハマゴウが見頃です

◆日時：7月21日(木曜日)夏休み

◆場所：常滑市蒲池海岸
名鉄常滑線蒲池下車徒歩 10 分位です

◆受付：9:00

観察会：9:30～11:00

※参加者は7月15日までに知多支部の南川までにご連絡ください。
その他 弁当、飲み物は各自持参してください。

自然観察会のレクリエーション傷害保険について

1. レクリエーション保険の主旨

愛知県自然観察指導員連絡協議会では、組織内の各団体が行う自然観察会に参加する一般参加者の主にケガの補償に備えるため、レクリエーション傷害保険を用意しています。10年前から実施していて、保険適用で支払いした事例もあります。県協議会で包括契約し、事務が比較的簡素化されていて万が一の事故に備えることができますので、是非ご利用ください。

自然観察指導員は、NACS-J の「自然観察指導員災害保障制度」で、活動中の傷害事故に対し保障される仕組みができています。(保険金額は違います。下記参照。)

2. 1日1人あたりの保険料 40 円

3. レクリエーション保険の内容

保険種類	普通傷害保険(行事参加者の傷害危険担保特約付普通傷害保険)
契約方式	レクリエーション傷害保険(行事名 自然観察会およびクラフト教室など)
保険金額	(1人あたり)死亡・後遺障害 590 万円 入院保険日額 5,000 円 通院保険日額 4,000 円
保険期間	毎年4月1日～翌年3月31日までの1年間
精算方式	包括契約・毎月報告一括精算
被保険者	愛知県自然観察指導員連絡協議会が実施する自然観察会およびクラフト教室など備え付け名簿の記載者すべて
保険の範囲	自然観察会に参加するため所定の場所に集合し、参加者名簿の記載から所定の解散地で解散するまでの、責任者の管理下にある期間

※1) 保険の対象者: 自然観察会の一般の参加者とするが、指導員を含めても差し支えない。含める場合、参加者名簿(保険対象)に加えて毎月報告が必要。参加者名簿は事故があった場合提出することになるので、少なくとも氏名と住所と電話番号が必要。

※2) 参考: NACS-J 自然観察指導員の保険

死亡保険金 500 万円、入院保険日額 3,500 円、通院保険日額 2,000 円。

指導員を当保険に含めるかどうかは各観察会で決定。

※3) 対象となる事故: 保険の対象は「自然観察会およびクラフト教室などの傷害」であり、有毒植物の誤飲や鋸・鎌を使つての作業中の事故、山岳登山はレクリエーション保険の対象外。熱中症など病気と思われるものは含まない。不明な点は保険担当に相談ください。

4. 参加者数の報告と精算

毎月、保険対象参加者数を翌月10日までに、E-Mail またはFAXで連絡。保険対象外の指導員の数、備考欄へ記入。年度末3月の観察会終了後、前年4月から3月までの保険対象参加者数を集計し、×@40円を振込み。

郵便振替口座：00820-9-6546 口座名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会

5. 事故の場合の事務

事故が発生した場合は翌日までに下記保険担当者に状況を連絡。

- ・ ケガをされた方(受傷者)の氏名、住所、電話番号、日中の連絡先、生年月日、性別
- ・ 事故日時と状況: 事故の日時、場所、ケガの箇所など。
- ・ 参加者名簿(受傷者が当日の観察会の参加者であることを示す)をご提出ください。

保険担当者と連絡がとれない場合、下記保険代理店へ連絡いただいても結構ですが、必ず後ほど担当者にも連絡ください。

保険代理店 富士オフィス&ライフサービス (株) 052-746-3001

保険金は治療終了後受傷者が所定の用紙で申告し、指定の口座に振込まれます。

健康保険などは使用した方が有利です。※被害者への対応は誠意を持って行ってください。

■連絡先：愛知県自然観察指導員連絡協議会

保険担当理事 布目 均 E-Mail n-1104@yk.commufa.jp Tel & Fax 052-771-0396

(平成28年度現在)

◆自然観察会の保険は、24年度、25年度に保険支払の事故が発生しており、観察会実施にあたり必要不可欠なものです。今年度も協議会ニュースに掲載します。◆折り込み形式の印刷物は、携行可能な1枚もの。観察会グッズのひとつとして持参ください。(編集部)
(平成28年4月1日改訂版)